



2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月5日

上場会社名 かどや製油株式会社 上場取引所 東
コード番号 2612 URL <https://www.kadoya.com>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）北川 淳一
問合せ先責任者 （役職名）執行役員コーポレート本部長 （氏名）高野 純平 TEL 03-6721-6957
半期報告書提出予定日 2025年11月14日 配当支払開始予定日－
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（アナリスト・機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年3月期中間期	20,614	4.8	2,455	22.2	2,485	20.4	1,691	20.5
2025年3月期中間期	19,669	9.1	2,009	1.5	2,064	△5.4	1,402	△3.7

（注）包括利益 2026年3月期中間期 1,773百万円（72.2％） 2025年3月期中間期 1,029百万円（△36.5％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	183.73	—
2025年3月期中間期	152.44	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年3月期中間期	44,312	36,123	81.5
2025年3月期	43,536	35,265	81.0

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 36,123百万円 2025年3月期 35,265百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	100.00	100.00
2026年3月期	—	0.00	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	—	—	105.00	105.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	40,500	2.6	3,500	10.5	3,600	6.0	2,450	3.9	266.19

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

2. 連結業績予想の修正については、本日（2025年11月5日）公表いたしました「2026年3月期業績予想及び期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年3月期中間期	9,400,000株	2025年3月期	9,400,000株
-------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2026年3月期中間期	196,383株	2025年3月期	196,734株
-------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数（中間期）

2026年3月期中間期	9,203,617株	2025年3月期中間期	9,203,266株
-------------	------------	-------------	------------

(注) 当社は「株式給付信託（ＢＢＴ）」を導入しており、期末自己株式数には、信託に残存する自社の株式（2026年3月期中間期 10,353株、2025年3月期 11,253株、2025年3月期中間期 11,253株）を含めております。また、期中平均株式数は当該信託が保有する株式を考慮して計算・記載しております。

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、上記予想に関する事項は添付資料P.3「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法）

当社は、2025年11月11日（火）に決算説明会を開催する予定です。

その模様及び説明内容については、当日使用する決算説明資料とともに、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	5
中間連結損益計算書	5
中間連結包括利益計算書	6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

① 当中間連結会計期間の経営成績の概況

当社グループは中期経営計画の達成に向けて、パーパス（ごまの価値を極限まで高めることで世界に貢献する）・ビジョン（「ごま」を通じて社会課題の解決に取り組み、社員と会社の両方が持続的に成長する）・バリュー（ごまのパイオニア／まずは、お客様第一主義／誠実、公平、偽りなく行動／差別なく、異なる考え方、文化、社会に敬意／自ら挑む、常に変化を生む）を2025年4月に策定し、当社グループのファンを基盤として中長期的に企業価値を向上させていく、「ファンベース経営」の実践に取り組んでおります。

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善により景気が緩やかな回復基調にある一方、依然として物価高の影響が継続しており、生活必需品をはじめとする価格上昇が個人消費の抑制要因となっております。世界経済においては、米国の関税政策の影響が徐々に顕在化し、各国中央銀行の金融政策の動向が注視される中、地政学的リスクも継続しており、先行きが不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、原材料価格の高止まりや人件費・物流費の上昇を背景に値上げ傾向が続いており、消費者の節約志向も依然として継続しております。一方で、外食産業は、インバウンド需要が堅調さを維持していること等により、引き続き好調に推移しました。

このような状況下において、当社グループは、厳格な生産体制の維持・管理を行いながら、効率化によるコスト削減により、収益性の確保に取り組みました。

この結果、当中間連結会計期間のごま油事業全体の販売数量は前年同期比6.9%増、販売金額は前年同期比5.7%増、食品ごま事業全体の販売数量は前年同期比0.5%増、販売金額は前年同期比2.4%増となりました。

売上原価は、原材料価格の上昇が一服したものの、補助材料代や修繕費等の各種コストの増加及び販売数量の増加等により、前年同期比3.4%増となりました。販売費及び一般管理費は、マーケティングの戦略的展開に向けた準備段階にあったため、広告宣伝費が減少したものの、研究開発体制の強化による研究開発費の増加、及び運賃の増加等により、前年同期比で微増となりました。

この結果、当中間連結会計期間の経営成績は、売上高20,614百万円（前年同期比944百万円増）、経常利益2,485百万円（前年同期比421百万円増）、親会社株主に帰属する中間純利益1,691百万円（前年同期比288百万円増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

1) ごま油事業

ごま油事業におきましては、家庭用は、「純正ごま油濃口」の認知度向上を目的としたキャンペーンを実施しました。加えて、販売シェアの拡大及び「かどやファン」の増加を図るべく、前期3月にテレビCMを、当期にはWeb動画広告を展開いたしました。これらの広告施策に加え、積極的な店頭販促活動を推進した結果、販売数量は前年同期に比べ増加しました。

業務用は、インバウンド需要の回復や外食産業の堅調な推移に加え、加工ユーザー向けの販売も引き続き好調に推移したことから、販売数量は前年同期に比べ増加しました。

また、輸出用は、物価の高止まりによる節約志向や、米国の関税政策に伴う駆け込み需要の反動が懸念されたものの、北米における加工ユーザー向けに販売が好調であったことに加え、駆け込み需要及び反動を抑えるための積極的な販促活動の効果等により、販売数量は前年同期に比べ増加しました。

以上の結果、売上高は16,265百万円（前年同期比879百万円増）となり、研究開発費や運賃等の増加があったものの、セグメント利益は2,240百万円（前年同期比520百万円増）となりました。

2) 食品ごま事業

食品ごま事業におきましては、主に加工ユーザーに対する積極的な提案営業を推進した結果、ねりごまの需要が堅調に推移し、販売数量及び販売金額は前年同期に比べ増加しました。

以上の結果、売上高は4,335百万円（前年同期比102百万円増）となりましたが、原料コストが高水準で推移した影響による原料代の増加等により、セグメント利益は208百万円（前年同期比52百万円減）となりました。

②中期経営計画関連の当中間連結会計期間における取組

1) 組織人事・経営基盤の強化

組織面では、2025年4月1日付で組織体制の見直しを実施し、ファンベース経営の推進を担う「ブランドマーケティング部」を社長直轄組織として新設するとともに、ごまの価値最大化を目指し「研究開発本部」を新設いたしました。また、米国市場の成長を取り込むべく、米国拠点の設立を本年度中の実現に向けて準備を進めております。

経営基盤については、社内風土改革や挑戦を支える人事制度改革を推進し、加えて、原材料価格の高止まりや物流費・人件費の上昇に対応するため、コスト削減策の実施および海外を含む生産体制最適化に取り組んでおります。また、当社グループのP V Vに沿ったブランド戦略の策定、基幹システムの整備、サステナビリティへの取組等、経営テーマの拡充に取り組んでおります。

2) ファンベース経営によるブランド価値の向上

ファンベース経営の考え方を軸に、ブランドへの共感と信頼を育む取り組みを進めております。6月に開催された株主総会閉会後に、ごま油の調味料としての新たな使い方を提案する試食会を実施し、サラダ・ピザ・おにぎり・アイスなどとの意外な組み合わせを多くの株主様にご体験いただきました。参加した皆様からは、味の驚きや新しい使い方への関心など、貴重なご意見を多数頂戴し、ごま油の魅力と可能性を再認識する機会となりました。今後も、ファンの皆様とのつながりを大切にしながら、共感を軸としたブランド体験の創出と、企業価値のさらなる向上に努めてまいります。

3) 持続可能な原料調達と地域共生の取り組み

持続可能な社会の実現に向けて、国内外の地域と連携した取り組みを引き続き積極的に推進しております。

2025年8月、パシフィコ横浜で開催された「第9回アフリカ開発会議(T I C A D 9)」において、当社はナイジェリアの小規模農家の生計向上を目指し、「国際農業開発基金(I F A D)」、「O l a m A g r i」、「MCアグリアライアンス」とのパートナーシップに関する意向表明書(L O I)を締結いたしました。これまで当社は、ナイジェリアにおいて農業技師の派遣による栽培指導を通じて、約2,000軒の農家の約2,000ヘクタールの圃場で収量と品質の向上を支援してまいりました。このような実績は、現地の農業生産性向上と生活基盤の安定に寄与しており、今後は新たなパートナーシップを通じて、より広範な地域への展開と持続可能な農業モデルの構築が期待されます。当社はグローバルな産地支援の取り組みを着実に積み重ねており、今後も持続可能な原料調達体制の強化に努めてまいります。

また、創業の地、香川県・小豆島の地域活性化に向けて、小豆島土庄町と連携し「ごまでつながる持続可能な島」を目指す地域創生プロジェクト「ごまのみらい小豆島プロジェクト」を今年も9月に実施しました。本プロジェクトでは、小豆島土庄町の小学生78名を招いたフィールドワークを行い、小豆島で育て、今年収穫したばかりのごまを通じて、食や農業への関心を高めるとともに、生産者との交流を通じて地域の魅力を体験していただきました。

これらの活動は、当社の原料調達における安定性と品質向上を支えるとともに、地域社会との共生を図る重要な基盤となっています。今後も、持続可能なごまを通じて地域の発展と自立支援に貢献し、企業としての社会的責任を果たしながら、株主の皆様にとっても中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

(2) 当中間期の財政状態の概況

当中間連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ776百万円増加しました。これは原材料及び貯蔵品が200百万円、有形固定資産が303百万円、仕掛品が148百万円減少するなどの減少要因があったものの、現金及び預金が1,560百万円増加したこと等によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ81百万円減少しました。これは支払手形及び買掛金が297百万円増加するなどの増加要因があったものの、賞与引当金が264百万円、未払金が193百万円減少したこと等によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ857百万円増加しました。これは、親会社株主に帰属する中間純利益1,691百万円の計上と配当金の支払い921百万円の加減算により利益剰余金が769百万円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当中間期における業績の進捗を勘案し、業績予想の見直しを行った結果、2025年5月12日付当社「2025年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」にて発表いたしました2026年3月期の通期の業績予想を修正しております。詳細は本日(2025年11月5日)別途公表の「2026年3月期業績予想及び期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,881	9,441
受取手形及び売掛金	8,983	9,053
商品及び製品	2,505	2,497
仕掛品	1,723	1,575
原材料及び貯蔵品	8,677	8,476
その他	597	446
流動資産合計	30,369	31,491
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,655	4,524
機械装置及び運搬具(純額)	2,145	1,897
その他	3,433	3,509
有形固定資産合計	10,234	9,931
無形固定資産	73	58
投資その他の資産	2,859	2,831
固定資産合計	13,167	12,821
資産合計	43,536	44,312
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,832	3,129
未払法人税等	600	752
賞与引当金	638	374
役員賞与引当金	139	63
その他	1,808	1,578
流動負債合計	6,018	5,898
固定負債		
退職給付に係る負債	1,792	1,795
役員株式給付引当金	37	35
株式給付引当金	7	7
資産除去債務	233	233
その他	181	217
固定負債合計	2,252	2,290
負債合計	8,271	8,189
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,160	2,160
資本剰余金	3,067	3,067
利益剰余金	30,400	31,169
自己株式	△1,359	△1,353
株主資本合計	34,268	35,042
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,002	1,028
繰延ヘッジ損益	△31	26
退職給付に係る調整累計額	26	25
その他の包括利益累計額合計	997	1,080
純資産合計	35,265	36,123
負債純資産合計	43,536	44,312

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	19,669	20,614
売上原価	14,334	14,831
売上総利益	5,335	5,783
販売費及び一般管理費	3,326	3,327
営業利益	2,009	2,455
営業外収益		
受取利息	0	6
受取配当金	27	27
補助金収入	28	—
雑収入	39	15
営業外収益合計	97	49
営業外費用		
支払利息	0	0
支払手数料	30	2
為替差損	11	15
雑損失	0	0
営業外費用合計	42	19
経常利益	2,064	2,485
特別利益		
固定資産売却益	0	—
特別利益合計	0	—
特別損失		
固定資産除売却損	5	—
特別損失合計	5	—
税金等調整前中間純利益	2,058	2,485
法人税、住民税及び事業税	583	693
法人税等調整額	72	101
法人税等合計	655	794
中間純利益	1,402	1,691
親会社株主に帰属する中間純利益	1,402	1,691

(中間連結包括利益計算書)

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益	1,402	1,691
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△73	25
繰延ヘッジ損益	△300	58
退職給付に係る調整額	1	△0
その他の包括利益合計	△373	82
中間包括利益	1,029	1,773
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,029	1,773
非支配株主に係る中間包括利益	—	—

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	2,058	2,485
減価償却費	563	520
賞与引当金の増減額(△は減少)	△242	△264
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△74	△75
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	35	2
役員株式給付引当金の増減額(△は減少)	3	△1
株式給付引当金の増減額(△は減少)	0	0
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	0
受取利息及び受取配当金	△28	△34
支払利息	0	0
支払手数料	30	2
有形固定資産除売却損益(△は益)	5	—
補助金収入	△28	—
雑収入	△9	△4
売上債権の増減額(△は増加)	△183	△69
棚卸資産の増減額(△は増加)	159	356
その他の資産の増減額(△は増加)	94	141
仕入債務の増減額(△は減少)	△674	296
その他の負債の増減額(△は減少)	△337	△157
小計	1,372	3,199
利息及び配当金の受取額	28	34
利息の支払額	△0	△0
支払手数料の支払額	△31	△2
補助金の受取額	28	—
法人税等の支払額	△484	△533
営業活動によるキャッシュ・フロー	913	2,697
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	10	—
投資有価証券の取得による支出	△4	△3
有形固定資産の取得による支出	△138	△181
無形固定資産の取得による支出	△2	—
有形固定資産の除却による支出	△5	△1
有形固定資産の売却による収入	0	—
資産除去債務の履行による支出	△0	—
貸付金の回収による収入	0	0
保険積立金の積立による支出	△1	△0
保険積立金の解約による収入	26	10
その他	△12	△43
投資活動によるキャッシュ・フロー	△128	△221
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△1	△1
自己株式の処分による収入	—	5
配当金の支払額	△920	△918
財務活動によるキャッシュ・フロー	△922	△915
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△137	1,560
現金及び現金同等物の期首残高	8,681	7,881
現金及び現金同等物の中間期末残高	8,543	9,441

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合 計
	ごま油	食品ごま	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	15,385	4,232	19,617	52	19,669
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	15,385	4,232	19,617	52	19,669
計	15,385	4,232	19,617	52	19,669
セグメント利益	1,719	260	1,980	28	2,009

(注) 「その他」の区分には、「仕入商品販売」を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,980
「その他」の区分の利益	28
中間連結損益計算書の営業利益	2,009

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合 計
	ごま油	食品ごま	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	16,265	4,335	20,600	13	20,614
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	16,265	4,335	20,600	13	20,614
計	16,265	4,335	20,600	13	20,614
セグメント利益	2,240	208	2,448	7	2,455

(注) 「その他」の区分には、「仕入商品販売」を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,448
「その他」の区分の利益	7
中間連結損益計算書の営業利益	2,455

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。